

人材育成の現状・課題

【本県の状況】今後15年間で中学校卒業予定者数が約4割（約3,800人）減少との予測

【現状と課題】①地域の高校の小規模校化が進む中、幅広い学力層への対応と多様な学習ニーズへの対応が課題

- ②習熟レベルに応じた授業の展開や学習コンテンツの提供により、生徒一人一人に個別最適な学びを提供する環境が必要
- ③不登校や病気療養等の長期欠席者、日本語指導が必要な生徒等への学習等支援体制の環境整備が課題

主な事業内容

複数校での合同遠隔授業の拡大

- 大分市外の全ての普通科等設置校に同時双方向型遠隔授業を拡大
- どの地域においても習熟度に応じた学びのさらなる充実のため、「物理」「化学」の習熟度別指導実施校を拡充



- 協力校教員との連携による学習・生活面のフォローの他、遠隔授業を欠席した生徒に対する「授業アーカイブシステム」の構築等を実施

遠隔教育高度化施設・設備の充実



- 高品質映像・音声配信に対応した、次世代型配信スタジオを整備
- 同一空間にいるような臨場感ある双方向授業を実現
- アバターロボットを全ての遠隔受信校に導入・設置し、配信校からの遠隔操作で対面に近い指導環境を実現



一人ひとりの多様な状況に対応した支援体制の強化

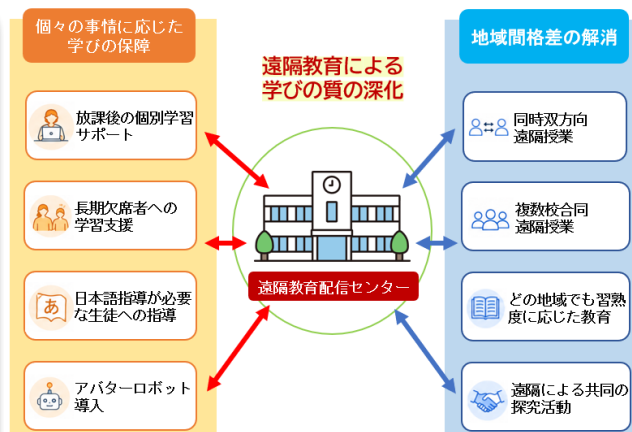


- 不登校や病気療養等による長期欠席者が校内別室や自宅等からでも授業をリアルタイムで視聴できる配信システムの構築
- 不登校生徒等への遠隔でのカウンセリング支援体制の整備
- 日本語指導が必要な生徒に対する遠隔での日本語指導やオンライン交流会の実施

事業概念図

配信センターを核に県内普通科等設置校をネットワークで結び、数学・英語・物理・化学の習熟度別授業を同時双方向で提供。併せて、AIによる学習状況分析等を実施。

新たな教育の在り方の普及



多様な生徒への学びの支援

- 全ての県立高校の生徒を対象とした授業外学習支援を展開。生徒一人ひとりの「進路希望に応じた伴走支援を実現。

【生徒進学支援オプション（SOP）】

- ①長期休業中・放課後の遠隔特別授業
- ②大学入試問題専用動画配信
- ③弱点補強動画配信
- ④放課後・長期休業中の個別サポート指導
- ⑤遠隔指導支援・キャリアガイダンス

- 令和10年度までに、全ての県立高校をネットワークで結び、同時双方向型遠隔授業の受信体制を構築